

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)  
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Parenting Attitude towards Children with Autism Spectrum Disorders: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

自閉スペクトラム症の子どもに対する養育者の態度

ユニットセンター(UC)等名:宮城ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名:BMJ Paediatrics Open

年:2024

DOI:10.1136/bmjpo-2023-002360.

筆頭著者名:金森 啓太

所属 UC 名:宮城ユニットセンター

目的:

健全な親子関係は子どもの発達に重要であるが、自閉スペクトラム症の子どもを持つ保護者は、子どもの養育に関してより多くの困難に直面する可能性があり、その結果として、好ましくない養育態度をとる傾向がある。本研究では、自閉スペクトラム症の子どもを持つ保護者がとった養育態度を調査することを目的とした。

方法:

エコチル調査参加者の保護者を対象とし質問票調査を行い、子どもが3歳6か月時に養育態度に関する16の質問に対し、「全く不適切」「やや不適切」「やや適切」「全く適切」の4つの選択肢から最も当てはまるものを選択してもらった。参加者を3歳の時点で自閉スペクトラム症と診断されているか否かで2つの群に分け、養育態度に関する16の質問それぞれに対する回答に差があるかを、Pearsonのカイニ乗検定で比較した。

結果:

対象となった82,411名の子どものうち、自閉スペクトラム症は372名であった。保護者の養育態度に関するほとんどの質問で、自閉スペクトラム症群は好ましくない態度をとる傾向があった。特にこの差は、子どもに対する愛情や配慮に関連した質問よりも、社会的規律に関連した質問でオッズ比が高かった。両群間で最も差が大きかった質問項目では、好ましくない養育態度は自閉スペクトラム症群で16.6%、非自閉スペクトラム症群で0.8%だった。

考察(研究の限界を含める):

本研究では、自閉スペクトラム症の子どもを持つ保護者が好ましくない養育態度をとる傾向があることを示した。この研究の結果から、保護者が子どもに対して愛情や敬意を表すことは非常に重要だが、子どもに社会的規律を教えることに対する保護者の態度も同様に重要であることが示唆された。加えて、自閉スペクトラム症を持つ子どもの保護者は、そのような適切な養育態度を示すことに関して特に困難を抱えることが明らかになった。本研究の結果から、教育機関や地域社会が多様性を受け入れ、特定の発達特性を持つ子どもの親を支援する環境を作ることが重要であると考察した。本研究の限界として、自閉スペクトラム症の有無と養育態度の因果関係は明らかではないことが挙げられる。

結論:

自閉スペクトラム症を持つ子どもを持つ保護者は、好ましくない養育態度を示すことを明らかにした。この問題を解決するために、特定の発達特性を持つ子どもの養育に困難を抱えている保護者への支援の重要性を強調した。本研究は、具体的な質問を利用した点で新規性があり、子どもに携わる専門家にとって指導の参考となるものと考えられる。